



深大寺社会参加活動

平成27年12月13日 (日)

写真 深大寺 不動堂

調布 狛江 保護司会だより

NO.36

発行責任者

調布狛江保護司会

会長 鴨志田 守久



深大寺住職

張堂

完俊

私は今教誨師をしています。夏になると受刑者の中には空調の効いた教誨室に涼むためにくる不心得者もいます、との刑務官の話がありました。こんな受刑者の嘘は実にたわいもないことで、一方娑婆世界にはとんでもない嘘が跋扈しています。報道は枚挙にいとまがありませんが、大きな社会問題化する事態になっています。倫理観の欠如は日本ばかりでなく、ドイツの名車もまた長きに渡る虚偽が発覚し、コンピューターの底知れぬ魔性を感じます。ITの進化に伴い人間力が劣化している気がしています。言葉や心の働きの必要とされないことは、私達に備わる六根が退化し、人間界が歪んでいくようです。歪みの字は見るからに悪しき事が想像されます。そんな鏡があったなら、忽ち外されるか、破却されるでしょうか、しかし人間はそうはいきません。会社が歪んでいたらどうでしょうか。社長であったらどうであろうか。現実を超一流企業にも起こりましたが、歪みの第一歩は嘘をつくことから始まるようです。そして嘘と人間社会に宗教が芽生えたことの深い関連が感じられるのです。仏教もキリスト教もイスラム教も今から千五百年、二千五百年位の間に発生しました。人間の進化の過程で社会が形成させられるとその集団の意思の統一が必要であります。嘘をつくことは歪んだ人間社会になり他の部族から滅ぼされかねない。このような中で人間を超える霊性、即ち神仏を人類は必要としたのです。いわば神仏というフィルターを通して言葉が浄化され、嘘ははじかれる。天網恢恢疎にして漏らさずということでしょうか。思うに更生には嘘など全く相容れぬ実際の世界、一つに大自然に近づき、大地の恵みに欣喜し、大海の猛威に畏怖し、これらに敬虔な態度がとれるような心ある人々の愛語が更生に向わせることと信じます。

管外研修

研修部 小幡 邦仁

平成二十七年十月一日(木)、調布・狛江保護司会の管外研修が実施されました。

当日は、すっきりとしない天候のもと、定刻通り、調布市役所を出発し、一路久里浜少年院を目指しバスは走り出しました。途中事故渋滞がありました。が、計画の時刻に「うらり三崎フィッシャリーナ・ウォーフ」に到着、小休止をとり、ここで土産品等を購入することができました。その後、「マホロバマインズ三崎」にて、昼食を頂きました。昼食後いよいよ本日の目的である久里浜少年院での研修です。予定より早く到着しましたが、少年院側の好意により、院内の各施設の見学と説明を受けました。途中から雨が降ってきたため、研修室にてパワーポイントを使って、久里浜少年院の成り立ちから現在に至るまでの経過、さらに、現在、在院している少年に対する学習指導等について懇切丁寧な説明がありました。

帰路、少年院の隣にある横須賀刑務支所の矯正品販売所がありましたので、予定を変更して立ち寄り、刑務所内で受刑者が作成した製品をお土産に買い求めました。

帰路のバスの中では、ささやかながら懇親会となり、道路事情もあり多少遅れましたが、無事に調布市役所に到着し本日の研修も無事終了しました。



地域別定例研修第Ⅱ期

期日 平成二十七年十月十四日(水)

場所 狛江市エコルマホール

内容 接触を確保するための関わり方について

講師 小嶋 忠志 主任官

第Ⅱ期定例研修資料についての説明後に、講義に入った。

接触の意義について、常に配慮すべきことおよび特に開始当初に配慮すべきことの事例を含めて解説があり、接触することで対象者のことについていろいろと知り、接触を重ねる中で相互理解が進み、信頼関係を見出すことが大切であるとの助言があった。次に、来訪・往訪の意義について対象者の立場を考慮した解説があり、対象者は自責が欠如している者・人間関係のルールに疎い者・家族に恵まれない者が多く、自分のことについて親身になって聞いてくれる存在となることが大切であるとの助言があった。往訪については、家庭環境が複雑なこともあり、本人の事情を考慮することに注意が必要であるとの助言があった。

また、電話や電子メール等の接触の考え方については、長所短所があるが、補助的な手段として捉えるものとする。さらに、段階別処遇に定められた接触では、罪内容・前科や本人に設定された特別遵守事項等により段階が設定され、その段階に応じた接触回数などが定められており、これが通知されるとの説明があった。

後半は、小グループに分かれて、4つの課題について経験をもとに話し合い、その後、グループごとに発表し、参加者皆で共通理解をもった。

研修部 毛塚 敬進

地域別定例研修第Ⅲ期

期日 平成二十八年二月四日(木)

場所 調布市文化会館たづくり

内容 保護観察対象者の就労について

講師 小嶋 忠志 主任官

二月四日立春

本年度最後の定例研修が「たづくり映像シアター」で開催されました。観覧席のような配置なので、いつもと違った感覚でした。

冒頭、小嶋主任官から「調布・狛江地区」の保護観察事件の概況や件数の報告があり、立川支部管内と比較した数字が示されました。

再犯で刑務所に収容された受刑者の約七割が無職。

保護観察終了時、無職であった人の再犯率は有職者の再犯率の約四倍に上る等、就労および就労の継続は大変重要であるとの報告がありました。

そして、国による保護観察対象者に対する就労支援制度やハローワークの専門職(就労支援ナビゲーター)の支援制度の説明がありました。

最後に、この制度を活用し対象者の支援を行った、ベテラン保護司の飯塚さんから事例が報告されました。

主任官からは、本人のやる気があれば、私に相談の上是非とも府中のハローワークを利用して欲しいと話され終了しました。

(広報部)

第七ブロック 保護司組織運営連絡協議会

第七ブロック保護司組織運営協議会は、「充実した保護司会の地域活動について」を協議題として協議が行われました。調布・狛江地区保護司会からは宮内調布副分区長が、協力雇用主の開拓、研修・懇親会を通じた就労支援の推進について、保護司会の活動状況を報告しました。

平成二十一年に十二事業者で発足した地区雇用主会は、現在、美容院、ケータリング、製造業など幅広い業種で構成されている。保護司会では、更生保護施設での研修、協力雇用主を講師に招いての自主研修、また就労支援事業者機構から同機構の活動状況や新しい制度について協力雇用主も参加して話を聞くなどの活動を通して、協力雇用主と保護司との交流や雇用主の拡充に努めています。

協力雇用主と保護司会が研修だけでなく懇談会等を通じて交流することで、雇用主の更生保護に対する理解も深まり、全般的に雇用状況が芳しくない現状でも、十三事業者が地区協力雇用主会に登録しています。協力雇用主は雇用だけでなく、例えば高齢者施設の事業所では、社会貢献活動の受入を予定し、また保護司会が自由に利用できる会議室を無償提供をいただいている雇用主もあります。

現在、協力雇用主のもとで働く保護観察対象者は必ずしも多くはありませんが、事業者と保護司会との連携を維持・継続することで、保護観察対象者の更生に資する環境を整えることが大変重要であると考えています。(広報部)



自主研修

期日 平成二十七年十一月十日(火)
場所 あくろす 講師 南元 英夫 支部長

少年による非行、とりわけ凶悪犯罪が増加しているようにいわれることがあるが、実際には現在の少年犯罪の認知件数はピーク時の四分の一となり、人口比でも平成十六年から減少しつづけている。

同様に少年による殺人事件も減少しているが、近年は少年に対する厳罰化が進んでいる。

少年法は神戸児童連続殺傷事件が契機となり平成十二年、刑事処分の下限年齢が十六歳から十四歳に引き下げられ、また佐世保小学生殺人事件を契機に平成十九年には少年院送致の下限年齢が十四歳からおおむね十二歳以上に引き下げられるなどしてきた。今また川崎河川敷での痛ましい事件も影響し、少年法の適用年齢の引き下げが検討されている。

犯罪者に対する処罰感情が高まり、一つの事件が法の改正に繋がる。犯罪者を許さず社会から隔離するという空気を生んでいるが、更生保護理念からは逆行している。

父親のいない対象者に保護司さんが親身に相談のり、時にはスーパー銭湯に連れて行き、夜勤明けに来訪する対象者には朝食を用意して出迎えるなど、報告書を読んでいると涙が出る。保護司は素晴らしい制度だ。犯罪者に対する社会感情が厳しくなればなるほど保護司の存在が大切になる。世間は排除の論理に傾いているが、更生保護は包摂の論理。父性が切り分けたとすれば、母性は包摂。社会には父性と母性の両方が必要でバランスが大切。

保護司さんにお願したいことは、対象者が社会に対する信頼を取り戻すように接して欲しい。人のあたたかみ、ぬくもりを感じられる対象者との関係作りをお願いしたい。(広報部)

調布分区自主研修

期日 平成二十八年二月十二日(金)
場所 調布市文化会館たづくり
講師 佐藤 清志氏



当時六歳のお嬢様を、総重量二〇トン以上もある大型車で踏み潰され、わずかに手の感触でお嬢様を確認されたこと。また事故当時一緒にいた奥様は臨月であった。

一般的に交通事故と言われるが、飲酒運転やひき逃げは明らかに犯罪であり、交通犯罪に他ならない。しかし現実には殺意がないので過失であり、交通事故という言葉に置き換わる。お嬢様の場合も加害者は禁錮二年六ヶ月だったという。悲しみ・苦しみ・憎しみ等いろいろな感情が絡み合うのが犯罪被害者遺族であると語られた。

「歩車分離信号」普及活動・「ひき逃げ厳罰化」署名活動・「生活ゾーンの交通被害ゼロ」啓発等、冷静に地道な防止活動について、感情を押し殺して、淡々と語れるその言葉一つ一つが、ずしりと重く響いた。会場に置かれていた遺族の手記の一部にこんな記述がある。「救われない遺族の思いよりも加害者の社会復帰(更生とは違います)が尊重されるのはなぜですか？」中略「再び罪を犯した場合の『責任の所在』も明確にして頂くのが我々一般人のごく普通の感覚だと思う。この指摘に、「更生です。責任の所在(の一部は)私にあります」と正面から答えることのできない自分に、後味の悪さを残した。

(広報部)

深大寺社会参加活動に参加して

今年の深大寺清掃は、十二月十三日に行われ、朝から小雨まじりの肌寒い日でしたが、それぞれの担当場所に分かれ、深大寺の僧侶から清掃手順の説明を受けて作業が始まりました。



ある二人の対象者は、保護司から指示された落ち葉を黙々と集め、いっぱいになった袋をいくつも作っていました。

更生保護女性会が調理した心のこもった温かい昼食を「美味しい」と笑顔でおかわりをする対象者が多かったとのこと、とても嬉しく思いました。毎年、仏具磨きをしながら、自分では納得のいく出来栄えになかなかならず、時間ばかりがかかると、若い対象者があつという間に、ピカピカに磨き上げる力強さ、集中力にはただただ驚かされてしまいます。

護摩供養とご住職のユーモアのある法話には、対象者全員が最前列に座り、静かに傾聴している姿をみて、様々な体験をすることの大切さを感じました。

参加証とダルマを授与された時は、とても嬉しそうに笑顔がこぼれていました。対象者にとって深大寺社会参加活動の体験が将来実りあるものになることを願います。

地域活動部 内藤 純衣

深大寺社会参加活動アンケートより

社会参加活動に出席した感想

- ・ 日常の面接と違い、対象者の違う面を見ることが出来てよかったです。
- ・ 参加者が多く活気のある活動となった。反面活動(清掃)がスムーズに運びやや物足りなさも感じられた。
- ・ 次回は、参加対象者との交流を楽しみたいと思います。
- ・ 更女の皆さんの昼食は、いつもありがたいです。対象者にも気持ちが伝わると思っています。
- ・ 事前に共犯関係者の情報を共有し準備できてよかったです。



対象者の様子はいかがでしたか？

- ・ 時折笑顔を見せることもあり、また自分で仕事を見つけて取り組むなど積極的な様子でした。仏具磨きに一所懸命だったのが印象的でした。
- ・ 非常に楽しそうに行動していました。昼食を五杯もおかわりをし、(元気に)順調に生活をしている事がうかがえた。
- ・ 知り合いの対象者が、(都合で)帰ってしまった後、所在なさそうにしていた。
- ・ 最後まで黙々と作業していた事を評価したい。食事もおいしそうに食べており、準備して下さった方に感謝していた。

活動を充実させるための意見

- ・ 当日の(天気等)状況によって臨機応変に対応できたのはとても良い。
- ・ 長時間よりも短時間の方が、対象者は集中力を保って参加しやすいのではないか。
- ・ この活動は処遇方法の一つとして定着し、大いに誇れる活動だと思ふ。

対象者の感想(ほぼ原文)

- ・ ひたすら仏具を磨いたことで、疲れはしたが、ピカピカな仏具で護摩焚きをしてもらえ、とてもスッキリした気持ちになった。
- ・ 特別誰か新しい人との繋がりが出来たというわけではないのですが、地域の人と話してみたり、非常に貴重な体験をさせていただけで良かったです。
- ・ 仏具をみがいたら、すごくきれいで色々な仏具があつて、最後おきようをみていたら、仏具がきれいでおきようをはじめてみたんですけど、すごかったです。いい体験ができました。
- ・ みがけばみがくほど光るので、やりがいがあるなと思いました。
- ・ なんだかお寺のパワーというものを少しもらえたような気がします。とてもいい体験でした。
- ・ お寺の掃除が初めてで大変だったけど楽しかった。物をみがいていくのが達成感があつた。
- ・ 行く前は「めんどいな」とか思ってたんですけど、でも行ってみたら楽しかったので良かったなと思います。
- ・ 自分らの地元である調布市に貢献できたと思うのでとても喜ばしい事だと思います。また、次回も頑張つて参加したいと思ひます。
- ・ 日々掃除する機会があまりないが毎日続けたら良いことがありそうだ。
- ・ すこし、ちこくしました。ごめんさい。ごはんは、おでんとかまぜごはんがでて、とてもおいしかったです。

(一部文章に加筆・省略あり)



主任官のひとりごと 小嶋 忠志

十数年前、「割れ窓理論」という犯罪理論が日本でも注目されました。小さな悪事に目をつぶらずに対処することで、大きな犯罪を引き起こさせないという考え方で、この理論をもとに防犯を強化したニューヨークが、犯罪減少に成功したということに関心を集めました。

しかし、この成功に対し、様々な反論も提示されました。その中の一つに、中絶の合法化が理由であると唱えた人もいました。当時犯罪が減少したのはニューヨークだけに限らず、全米で同じように犯罪が減少しており、ニューヨークの減少を取り立てて特別視することはできないというものです。ではなぜ全米で犯罪が減少したかという点、一九七〇年代に中絶が合法化されたからというのです。これによって、望まれないで産まれてくる子供が減少し、彼らが犯罪を引き起こす年齢相当になったとき、不利な条件で生育したことに起因して、犯罪を高い確立で引き起こす人が減ったことが理由だということです。ただ、この考えに対しては、不利な条件で産まれた子供は皆悪事を働いてしまうのかと言いたくもなりません。

私は犯罪学の専門家ではありませんので、どの考え方が正しいのか判断できません。ただ面白いと感じた点があります。犯罪が減少したという事実一つでも、物の見方には多様性があるということです。非行少年、犯罪者と聞くと、悪い奴らという面を見てしまいがちですが、別の面から見る必要性も感じます。できれば、人の悪い面に着目するより、良い面に着目できる、このような保護観察官でありたいと思っています。

平成二十七年度 調布市立小中学校と 保護観察所保護司との懇談会

学校連携推進委員会 委員長 鈴木 俊一

十月八日(木) 調布市教育委員会指導主事、小中学校校長、中学校副校長、生活指導主任の先生方のご理解、ご協力により生活指導主任会の貴重な時間の一部をいただき開催する事ができました。

東京保護観察所立川支部小嶋忠志観察官より中学生の保護観察、保護司の仕事についてお話を頂き、その後八グループに分かれて情報交換など熱心に話し合いが行われました。今、生徒を取り巻く社会環境は驚くほどのスピードで移り変わっています。だからこそ、学校と保護司の信頼関係を築き今学校が何を必要としているのかを知り、保護司のできることを伝えることが大切だと思います。生活指導主任へのアンケートで、保護司に望むことには「子どもたちの気になる傾向、行動、兆候、非行に走る原因や心性等ご経験の中から教えていただきたい」「保護観察対象となった子どもたちとのコミュニケーションの取り方や更生への手立てなど教えていただければ、日々の指導に活かしていただけるのではないかと思う」「教員研修などでお話ししていただける機会があればいいと思います」「話ができる時間がもう少しあると良かった」など保護司に対する期待が大きく表れていました。これからも、地域の子ども達が健やかに育つていきますよう、輝く笑顔のために、皆様のご理解ご協力を宜しくお願いいたします。

桐友会だより

桐友会員 中村 昇

一昨年から三回続けている「健康講座」を十一月十八日に開催しました。今年のテーマは「最近知っておくべき医療」で、講演後各自の健康に対する自身の体験と、健康に対する考え方の活発な意見交換を行いました。現在慢性疾患に罹患している方もおられ、その方々の臨床体験は、聞いている方に感動を与えます。「患者は皆我が師なり」と言われ、参加者全員の忌憚のないテーブルディスカッションは年齢を問わず、皆様の今後の健康に役立つと思われまます。

昨年の話題の一つにサルコペニア(加齢性筋肉減少症)があります。筋肉量は四十歳過ぎから少しずつ減り、機能も衰え、歩く速度が遅くなる特徴があり、若い時から栄養バランスのよい食事と、筋肉を維持する運動習慣が大切です。

今後最も増加する病気はCOPD(慢性閉塞性肺疾患)で、二〇三〇年までに世界で三番目に死因が多くなるであろうとWHOは予測しております。咳嗽、喀痰が主でタバコが原因となります。最近坂を上がるとき苦しくなると訴える方は、呼吸機能検査をして頂き、早く診断を付けて治療するようお願いしています。

COPDに関連した検査でSPO2(動脈酸素飽和度)があります。最近PET検査(陽電子放射断層撮影)は、早期癌発見法として注目されております。



更生保護女性会だより

調布・狛江地区更生保護女性会 嶋田 弘子

平成二十七年年度の活動としては保護司会との連携活動をはじめ、ミニ集会、バス研修会、福祉まつり等の行事をすべて行いました。

福祉まつりに向けて、今年も心のこもった素晴らしい手作りの作品が出来あがり、バザー当日は手作りの品を楽しみに来て下さる常連の方をはじめ多くの方に喜んで頂きました。

更女の運営においては、多くの保護司の方にご協力をいただいております。会員数の増減は更女活動にも影響してきます。新会員の勧誘にも心掛けて更女と保護司会との協力関係をもち新しい年度も活動して行きたいと思えます。

BBS会だより

調布・狛江地区BBS会

会長 太田 朝

平成二十七年十二月十三日に深大寺社会参加活動が行われ、当地区BBS会からは三名が参加しました。BBS会は開山堂での掃除を担当しましたが、対象者がのびのびと作業している姿が印象的でした。BBS会でも恒例行事として楽しみにしている活動の一つなので、今回はより多くのメンバーが参加できるようにしたいと思います。

現行BBS会は会員八名で活動していますが、社会人と大学院生で構成されており、定期的に活動出来るのが現状です。保護司会のご協力で、百合女子大学の学生が、昨年5月に行われた神代農場社会参加活動に初めて参加しました。しかしなが

協力雇用主インタビュー

会社名 株式会社加藤商事

期日 平成二十八年一月二十五日

担当者 総務部 次長 金井 悟様

課長 横山 一郎様

現在、協力いただいている雇用者はいますか。

金井：現在は保護観察解除した十七歳の男子一名。狛江市青少年課と狛江保護司の方の依頼で、平成二十二年六月より協力雇用を始めてから、二人目です。一人目は、既に本人希望の別の職について退社しました。

仕事はどのような内容ですか。

金井：狛江市委託事業のごみ収集作業を行っております。現在雇用中の十七歳男子は、車に運転手とペアーで、市内のごみ収集作業を行っております。朝八時十五分～十六時十五分まで月曜日から金曜日の週三十八時間です。

勤務状況はいかがですか。

金井：当社の仕事は、サービス業です。多くの市民の方と顔を合わす機会が非常に多いです。現在十七歳男子は、職場の仲間とも上手く付き合え、あえて本人から「自分は保護観察中」と公表し、隠すことなく頑張っています。仕事は、ごみ収集のため走り回っています。そして市民の方にも接しますので、マナーも守ってくれています。

一人目の対象者は、未成年で入社当時

目つきもきつく難しい状況でしたが、特別扱いはしませんでした。夜間高校に通いつつ一年間で高校を卒業と同時に本人希望の職に就くため退社しました。働き出してから笑顔になり、無遅刻・無欠勤でした。現在の男子も無遅刻・無欠勤で頑張っています。

今後も依頼があれば、協力はいただけますか。

横山（採用担当）：依頼があれば受け入れます。

協力雇用主の研修について。

金井：私も研修会で二十分の時間をいただき「体験談」を話しました。やはり、いろいろな体験談が聞けると参考になります。

要望などございますか。

横山：若い力が来るということは、非常に会社としてありがたいです。仕事内容は「3K」の分類に所属しますが、やることは決まった事をやるので、悩んだりすることは無いと思います。一緒に汗をかき体力勝負の仕事です。また仲間とのコミュニケーションが良い経験になると感じています。経営陣がフラット感覚で、特別扱いをしていない。

成人の対象者は、どうでしょうか。

金井：一度研修で、宿泊施設を見学しましたが、高年齢は難しいと感じました。

横山：一日一〇キロ位走るの、体力的には難しいかと思うのと、また市民の皆様に対してのサービス業なので、対面的にも注意しなければなりません。そして若い方ならばペアーを組んでも職員が気軽に接することが出来ますが、年上の方では難しいと考えます。

(敬称略)

狛江地区保護司会新



鴨志田会長あいさつ
平成28年1月15日(金)
調布クレストンホテル
出席者96名

新年会



平成27年12月6日(日)
調布駅南口前広場
参加者18名

調布市福祉バザー

ら現状は入会には至っていないため、今後も積極的に声をかけたいと思います。
最後になりますが、昨年八月にBBS会の総会を行い、昨年度の活動と会長新任のご報告をさせていただきます。微力ではありますが、BBS会の活動の継続と体制整備を行っていきたいと思いますので、今後とも温かいご支援の程、よろしくお願いたします。

会社名 株式会社大和組
期日 平成二十八年一月二十八日
担当者 代表取締役社長 津田 浩一様

現在、協力いただいている雇用者はいますか。

現在はいません。当社は平成四年に八王子鑑別所から直接依頼があり、十八歳の保護観察少年を雇用し、会社寮に住ませ保護観察終了後を含め三年間真面目に働いてくれました。その後実家の八王子に帰り覚えた仕事を続けています。二人目は二十一歳で八王子から連絡で滋賀刑務所まで面接に行き、文通を半年間行い保護観察中に雇い入れ、保護観察終了後二年半住み込みで働き、その後実家の九州に戻りました。三人目は、山梨の施設から依頼が有り雇い入れた、十七歳保護観察中だが住み込みで直ぐに辞めてしまいました。

仕事はどのような内容ですか。

建築現場の鳶作業が主な仕事です。

勤務状況はいかがですか。

一人目は、八王子から通えるが、友人と離れるために当社寮に住み込み、盆と正月以外八王子実家に戻らないほど真面目でした。他職人にも非常に好感をもたれていた。二人目も頑張っていました。

今後も依頼があれば、協力いただけますか。

もちろん雇います。

協力雇用主の研修について。

研修に出て、初めて協力雇用主に補助金が出ることを知りました。

要望などございますか。

情報が欲しい。今回初めて保護司会広報誌を見ました。他の協力者がどのように受け入れているか知りたい。鴨志田会長が、会社に挨拶に来てくれたことは、非常にうれしいことです。

会社名 有限会社E.Lサービス
期日 平成二十八年一月二十九日
担当者 部長 高橋 良春様

現在、協力いただいている雇用者はいますか。

現在までいません。過去に十八歳の対象者を面接しましたが、年齢が当社仕事に若すぎるのでお断りいたしました。

仕事はどのような内容ですか。

当社は不動産管理を行っております。お客様の集合住宅の巡回清掃、点検、メンテナンスを行う業務です。平日の昼間に車にて管理物件を定期的に巡回しています。対象者の方が入社すれば、当社職員とペアーを組み仕事を覚えてもらい、その後一人で巡回作業ができるまでに考えております。

今後も依頼があれば、協力いただけますか。

是非協力したいと考えております。

協力雇用主の研修について。

他社の体験談が、とても参考になりました。情報交換など出来るように回数を増やしてほしいと思います。

要望などございますか。

広報誌を始めて見ました。保護司活動・雇用協力主の情報が知りたい。当社は、常に対象者受け入れ態勢ですが、その情報提供が常時できる連絡体制を整えてほしい。大和組津田社長は、狛江青年会議所の先輩で雇い入れの情報は時々伺っていました。

更生保護事業関係者 表彰者

法務大臣表彰

愛甲 悦子

全国保護司連盟理事長表彰

小林 和彦 武富 資子

関東地方更生保護委員会委員長表彰

浅田 靖 鈴木 俊一
園田 和子 林田 堯瞬
峯岸 伴則

関東地方保護司連盟会長表彰

小野 道博 小室 静了
内藤 純衣 長谷 瑞信
谷田部 一之

東京保護観察所長表彰

川又 剛

東京保護観察所長感謝状(家族功労者)

井上 治江

東京都保護司会連合会会長表彰

榎本 竹伸 柿澤 正夫

多摩地区保護司会連絡協議会会長感謝状

齊藤 百合子 柿澤 正夫
榎本 竹伸

第六十五回社会を明るくする運動作文コンテスト

佳作

調布市立第七中学校一年 町田 遥
調布市立調布中学校三年 中山乃野子

奨励賞(東京保護観察所長感謝状)

調布市立神代中学校
調布市立第七中学校

退任

武富 資子 (調布分区)

平成二十八年 一月三十一日

峯岸 伴則 (調布分区)

平成二十八年 一月三十一日

保護司会の今後の予定

四月十五日 調布分区保護司会総会
四月二十二日 調布・狛江地区保護司会総会
創立二十周年祝賀会

六月五日 神代農場社会参加活動
六月九日 地域別定例研修第I期
七月一日 社会を明るくする運動
駅頭広報

七月十八日 青少年非行防止パネル展
狛江実施大会

(中学生標語表彰式とコンサート)
七月二十四日 中学生サッカー教室
七月三十日 調布市中学生意見発表会

十月十三日 地域別定例研修第II期
十月二十日 第七ブロック協議会
十二月十一日 深大寺社会参加活動
平成二十九年 二月七日 地域別定例研修第III期

調布分区理事研修



平成28年2月22日(月)
更正保護法人 徳風苑 親和寮
石川県金沢市宝町 1-16

あとがき

先日ピーコさんが「サワコの朝」で、癌の手術後義眼を入れる折りに、永六輔さんの呼びかけで三百人から支援が寄せられたことをお話しになっておられました。この支援を受けたことにより人生観が変わり、人の役に立つということが仕事を選ぶ基準になったそうです。病ということが一つの縁として感謝が生まれ、その感謝が人生に豊かさや深みをもたらすことを感じました。 酒井 淳

広報(編集) 部員

- | | | |
|-----|-------|-------|
| 部長 | 矢辺 良子 | 伊藤 知弘 |
| 副部長 | 愛甲 悦子 | 栗山 剛 |
| 副部長 | 酒井 淳 | 佐藤 亜古 |
| 書記 | 柿澤 正夫 | 須田 啓文 |
| 書記 | 濱中 佳朗 | 林田 堯瞬 |
| 会計 | 井上 喜一 | 馬部 久夫 |
| 会計 | 嶋田 弘子 | 真山 勇一 |